

情報公開用文書（茅ヶ崎市立病院で実施する医学系研究）

西暦 2017 年 1 月 20 日 作成

<p>■研究課題名</p>	<p>大腸ESD施行時における抗血栓薬の取り扱いについての検討</p>
<p>■研究の対象</p>	<p>2012年4月から2016年11月までに当院で大腸ESDを施行された患者</p>
<p>■研究目的・方法</p>	<p>【目的】 大腸ポリープESD施行時の抗血栓薬の取り扱いをどうすべきか検証する事。 抗血栓薬を内服していることが、本当に大腸ESDの後出血率を上昇させるのかを検証する事。 【方法】 多施設共同後向き観察研究</p>
<p>■研究期間</p>	<p>2017年2月9日(承認日)～2018年6月30日 ただし、データ収集や解析に時間を要した場合には延長の可能性がある。</p>
<p>■研究に用いる 試料・情報の種類</p>	<p>脳梗塞や心筋梗塞の予防や治療のために必要で内服している薬剤であり、大腸ESD施行時や施行後の出血予防のために内服を中止する事が本当に正しいかを検証したい。もし、抗血栓薬を内服継続した場合でもESDの出血量や後出血率が変わらないのであれば、心筋梗塞や脳梗塞などの血管イベントの発症リスクを最小化したまま大腸腫瘍に対する内視鏡治療を行えるという事を意味しており、多くの患者に貢献できる研究であると考えられる。また、仮に抗血栓薬内服継続で大腸ESDを施行すると後出血率が多少上昇するにしても、内視鏡的止血が可能であり予後良好であれば、取り返しがつかない脳梗塞や心筋梗塞になってしまうよりも安全と考えられる。抗血栓薬内服継続により後出血率と抗血栓薬内服中止による脳梗塞や心筋梗塞の発症率の比較も重要であると考えられる。</p>
<p>■試料・情報の 取得と保管方法</p>	<p>個人情報の取り扱いには十分配慮し、収集するデータについては匿名化をして管理します。よって、個人情報は一切公表されることがなく堅く守られることを保証します。 また、研究計画書及び研究の方法に関する試料については入手または閲覧することが可能です。下記お問い合わせ先までご連絡ください。ただし、入手・閲覧可能な情報は個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内に限らせていただきます。</p>
<p>■外部への 試料・情報の提供</p>	
<p>■研究組織</p>	<p>横浜市立大学附属病院消化器内科 肝胆膵消化器病学</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで、電話またはFAXにてお申し出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。</p>	
<p>お問い合わせ先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先:  〒253-0042 茅ヶ崎市本村5-15-1 茅ヶ崎市立病院 消化器内科 (研究責任者) 栗山 仁 電話番号:0467-52-1111(代表) FAX:0467-54-0770</p>	